



東アジア文化都市  
北九州2020-21  
CULTURE CITY OF EAST ASIA IN KITAKYUSHU



朝日新聞社 邪馬台国シンポジウム  
主催 朝日新聞社 後援 全日空 協賛 博多全日空ホテル



1977年1月に開催された『邪馬台国シンポジウム』（朝日新聞社主催）で司会をする松本清張



邪馬台国?

《シンポジウム》

# 東アジアの中の邪馬台国

## ——清張邪馬台国論の現在

### 第1部 記念講演

『邪馬台国の時代  
——卑弥呼の倭国連合と纏向の倭王権』

講師 ● 倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）

### 第2部 パネルディスカッション

パネラー ● 倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）  
● 片岡宏二（小郡市埋蔵文化財調査センター所長）  
● 北橋健治（北九州市長）  
コーディネーター ● 久米雅雄（大阪芸術大学客員教授）

令和3年

日時

**10月10日(日)**  
14:00~16:30

会場

北九州市立男女共同参画  
センター・ムーブ「ホール」

北九州市小倉北区大手町11-4

定員260名

入場無料(要申込) (裏面参照)

北九州市立  
松本清張記念館



一大率檢察諸國諸國畏憚之常治伊都  
有如刺史王遣使詣京都帶方郡諸韓國  
國皆臨津搜露傳送文書賜遺之物詣女  
錯下戸與大人相逢道路逡巡入草傳辭  
或跪兩手據地爲之恭敬對應聲曰噫比  
國本亦以男子爲王住七八十年倭國亂  
年乃共立一女子爲王名曰卑彌呼事鬼  
年已長大無夫婿有男弟佐國自爲王  
見者以婢千人自侍唯有一  
入居處宮室樓觀城柵嚴

## I 「東夷伝」の中の「倭人の条」

「倭人伝」は「東夷伝」のなかの項目だから、「倭人伝」だけをきりきりして考えるべきでなく、「東夷伝」諸国の記事をもいっしょに見わたしながらその研究が書かれなければならない。ところが、(中略)研究も思案もほとんど「倭人伝」のなかだけでのみおこなわれてきた。／それでは理解がたよるのではないかと、「東夷伝」ぜんぶを見わたさないとじゅうぶんな理解とはいえないのではないか。(『邪馬台国 清張通史1』要約)

## II 東アジアの中の「一大率」

なぜに女王国以北の沿岸地帯に、(帯方)郡がわざわざ一大率をおいたかといえば、この地域が女王国の支配からはなれた特別地域だったからである。(略)魏は漢の時代とちがい、公孫氏時代のあと、倭国に宗主権を認めたのであるが、海峡沿岸地方を手はずすことはしなかった。このためにそこは女王国の行政から切りはなした付庸地(\*宗主国に従属して、その命令に従う小国)扱いとした。女王国からすれば治外法権的な地域である。それが「女王国より以北」という表現になったにちがいない。(中略)「魏=帯方郡の付庸地」と考えたい。魏=帯方郡としては、占領地でもない、さりとして不干渉地でもない、事実上の付庸地に置く司政官なので、とくに「一大率」の名をつけたのであろう。「特に一大率を置く」の「特に」は、この特設された官名にもかかるし、付庸地という特別地域に特に置いたという重要な特例の意味にもかかる。(『邪馬台国 清張通史1』要約)

## III 清張の九州説—「璧」の重視

この『魏志』の記事(「東夷伝」夫余)からみても、璧は漢が担当の出先官庁を通じて服属の蛮夷国の王にわたしていたことがわかる。してみると、三雲遺跡の出土品によって伊都国王は漢か後漢のころに楽浪郡からガラスの璧をもらい、須玖遺跡の出土品により奴国王は同じ経路でそれをもたらっていたことになる。(中略)そのなかで、伊都国と奴国だけが楽浪郡から玻璃璧をもらったというのは、この海峡沿岸の二つの国だけが郡に大きな勢力とみとめられていたからである。(略)いまのところガラスの璧は伊都国のあとと奴国のあとと二カ所しか出土してなく、とくに伊都国のあとが圧倒的に多い(もちろん畿内には一つも出ていない)。

同じ漢の出土品でも鏡と璧とは、その価値を区別して考えなければならない。鏡のほうは倭国の者がこれを愛好するというのでいくらでもくれたらしいが、璧はそうはゆかない。貴人の漢墓にのみ璧が副葬されているところに、漢らしいの朝鮮西北部と北部九州とのとくべつな関係がうかがわれる。(『邪馬台国 清張通史1』要約)

## IV 卑弥呼殺害と消えた邪馬台国

しかし、記事は(郡太守が魏帝からの詔書・黄幢を難升米に与えて激励した)そのあと唐突に「卑弥呼以って死す」と書く。これは「夫余伝」に、天候が不調で作物がみられないときは王が殺されるとあるのに相似している。(略)「卑弥呼以って死す」を、「もって」ではなく「よって」と読むとき、郡からの特使張政が女王国の諸首長たちの意志により卑弥呼に「死」の徽を与えたと解釈する。夫余の麻余の後継者依慮は六歳、卑弥呼の後継者吉与(台与)は十三歳である。消えた女王国や狗奴国の運命を考えると、邪馬台国九州説はとにかく九州北部にあった邪馬台国勢力が畿内に移ったと考えなければならない。(『古代史疑』では、「変質した女王国(騎馬民族的・北方系)」の東遷説を説いている)(『邪馬台国 清張通史1』要約)



### 講演者



倉本一宏

●プロフィール  
国際日本文化研究センター教授  
1958年三重県生まれ。  
東京大学文学部国史学専修課程卒業後、同大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程単位修得退学。博士(文学、東京大学)。専門は日本古代政治史、古記録学。  
著書:『はじめての日本古代史』(ちくまプリマー新書、2019)、『内戦の日本古代史』(講談社現代新書、2018)など

●講演要旨  
『三国志』の史料的性格や当時の中国情勢、それに日本列島内の考古学の成果を正確に把握して、北部九州に所在した邪馬台国と、奈良盆地に成立した倭王権の関係について解説する。

### 申込方法

定員260名  
入場無料

往復はがきまたは電子申請でお申込みください。

#### 往復はがき

下記必要事項①～⑥をご記入の上、下記宛先までお送りください。  
①代表者氏名、②住所、③電話番号、④年齢、⑤希望人数(代表者を含む4名まで申込可)、⑥邪馬台国についての質問(任意)

#### 電子申請

右記のコードからお申込みください。



締切/令和3年9月21日(火)

〒803-0813 北九州市小倉北区内2番3号 松本清張記念館「シンポジウム」係

\*応募者多数の場合は抽選となります。 \*個人情報情報は本シンポジウムのご連絡以外には使用いたしません。  
\*新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします。(感染状況によって催しの変更となる場合があります)

### パネラー



片岡宏二

●プロフィール  
小都市埋蔵文化財調査センター所長  
1956年福岡県生まれ。  
早稲田大学第一文学部日本史専攻卒業。小都市教育委員会技師、行橋市歴史資料館館長を経て現職。博士(文学、早稲田大学)  
著書:『邪馬台国論争の新視点-遺跡が示す九州説-』(雄山閣、2011)『続・邪馬台国論争の新視点-倭人伝が語る九州説-』(雄山閣、2019)

●発言要旨  
邪馬台国時代、中国は倭をどの地域とみていたのか、倭には近畿とツクシという二つの「点」があった。二点は「線」でつながらず、私は考古学的な成果から、中国は「倭=ツクシ」と認識していたと考える。



北橋健治

●プロフィール  
北九州市長  
1953年生まれ。  
1986年衆議院議員初当選。  
大蔵政務次官、運輸委員会筆頭理事、衆議院環境委員長、大蔵委員会筆頭理事、地方制度調査会委員、行政改革特別委員会筆頭理事を歴任。  
2007年 北九州市長就任。

●発言要旨  
『清張通史』などで日本のルーツについて、知的作業を重ね、旧来の諸説をタブー視することなく自由な考察によって新しい境地が開拓された。清張作品には、国の生い立ちについて一から立ち向かわせてくれる不思議な魅力がある。自身は「邪馬台国東遷説」を支持。



久米雅雄

●プロフィール  
大阪芸術大学客員教授(アジア印章史)  
1948年、愛媛県生まれ。  
1970年、立命館大学文学部史学科卒業後、大阪府教育委員会文化財保護課専門職員(考古学・美術工芸)を経て2008年より大阪芸術大学客員教授。博士(文学、立命館大学)  
2013年第15回松本清張研究奨励事業入選。著書:『日本印章史の研究』(雄山閣、2004)、『はんこ』(法政大学出版局、2016)など。白川静賞受賞(2010)。

●発言要旨  
『松本清張古代史論』(「松本清張研究」第19号(2018年))において、『国宝金印伊都国説』と「新邪馬台国論」と「松本清張「火の路」とペルシア文化の飛鳥東漸」について論じた。今回はそのテーマにそって「倭国大乱東征説」、結果としての「筑紫女王国(吉野ヶ里)・伊都国」と「畿内邪馬台国(纏向)」の二王朝並立論と出雲国などの周辺を説く。

[特別企画展]

# 松本清張と東アジア

韓国・中国の清張〈書店〉と作家の歩いた〈風景〉

令和3年 9月4日(土) — 12月5日(日) 会場: 松本清張記念館 企画展示室

■開館時間: 午前9時30分～午後6時(入館は午後5時30分まで)  
■常設展観覧料: 一般600円[480円]・中高生360円[280円]・小学生240円[190円]  
(企画展観覧料を含む) ※ [ ]内は30名以上の団体料金です。  
■休館日: 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)  
■〒803-0813 北九州市小倉北区内2-3 TEL:093-582-2761 FAX:093-562-2303  
<https://www.seicho-mm.jp>

北九州市立  
松本清張記念館